

考え



ウマとシカとの
バカしあい!?

弦楽器イルカ + 友人



「天誅」というドラマは面白そうだけど、台湾では放送されていないからね。見てみたいな。ハチャメチャな内容なのか、意外とまじめなつくりなのか、とりあえずどっちなのか確かめたい。

ドラマはよくわからないけど、悪を一気に黙らせるために「天誅」は必要だと思う。これを国単位の規模で表現すれば、日本は原子力潜水艦による核武装を持つべきと言い換えられると思う。

なかなか福島の問題があるから、そこまでに至るのは難しい道のりがあるけどね。

原発作業員の給料なんだけど、現状のままでいいのではないかな？ 詳しくはわからないけど、そのお金で働く人がいるなら（実際にいるし）、それ以上賃金を上げる必要はないと思う。重要なのは、より安全に働けるようにすることだと思う。

ただ、残念ながら、普通の労働環境にはならないだろうね、福島原発という作業場は。労働法をすべて守ることよりも、原発と周辺環境の安全化がとても大事だからね。その分とリスクの分は賃金が高くなるべきだと思うけどさ。でも、すでに上乘せはされているでしょうね。想像だけだよ。いま話題の牛丼屋さんや居酒屋の店員より給料は高いはずだよ。それで十分でしょう。給料が安くて不満なのは自分もそうだし、みんな一緒だよ。

鼻血の問題は非常に興味深かったけど、鼻血なんて子供はいくらでも流すからね。福島周辺で鼻血の患者が増えた。それは事実かもしれない。でも、もともと鼻血を流したことを気が付かなかった子どもやその親が原発のことを意識しすぎて、記憶や印象に残りやすいだけでしょ。どうせ。原発は関係ないよ。

甲状腺がん、割合が1ポイント？ 増えた？ そんなの誤差の範囲だよ。有意差といえるだけの規模の調査だったのかな？ この結果をみると、むしろ、福島では甲状腺がんの影響はまだ見られないといえるのではないかな？

日本の原発事故処理能力はかなり高いし、みんなうまくやっているよ。もちろん完璧じゃないけどね。これは日本の強みだと思う。チェルノブイリよりももっと上手く処理できた国として誇りを持つべきだね。ここでの経験はきっと今後も活かされると思うよ。

そうそう、作業員の死についてだけど、前も書いたけど、普通はそれくらい人は死ぬもんだよ。人が集まれば死ぬ人もいる。心筋梗塞なんていつやってくるかわからない。放射線は関係ないね。放射線が殆ど無い場所でも心筋梗塞で人は死ぬよ。

事故死もいっしょだよ。同じくらいの人が、職場に行く途中で交通事故で死んでるよ、きっとね。クレーンでも死ぬし、車に轢かれて死ぬし、火事でも死ぬし、殺人の被害でも死ぬ。大勢の人間が集まる場所では、そういうことは日常的に起きているよ。まあ、福島原発は安全環境が整っていないからちょっと多いかもしれないけどね。まああれだな、職場までの道のりに落石注意な道が20Kmでも続いていて、大雨が降りやすい地域だったら、もっと事故死は多いだろうけどね。そんな感じだと思う。

美味しんぼの件は外国にいと、よくわからないけどね。原発は安全だと安倍さんが言わなけ

れば、東京でのオリンピックは難しかったね。本当に安全かどうかは誰もわからないけど、とりあえず、「安全宣言」をした安倍首相は偉いよ。責任の一端は俺が担うといったようなもんだからね。責任を取ろうとしている人がいるじゃないか。責任取りたくなければ、黙ってるよ。自分ならそこまで言えなかったと思うし、安倍さんは本当に偉いよ。

でも、国内の問題もそうだけど、中国の拡大については警戒が必要だね。日本人と中国人はどうしても喧嘩が起きやすいからね。中国共産党は「統治の正当性」を維持するためには、領土問題について強気にでなければいけないからね。とくにフィリピンは海軍が強いわけでないから、やばいかもね。でも、日本は巡視艇かなにかをプレゼントしたんだよね。良いバランスだと思う。こういう時こそ、日本が正義の味方になって、アジアの安全を守っていかなきゃね。もうアメリカに頼る時代も終わりだと思う。

そこで、通常の軍事力では中国に負けないとしても、気になるのは、やっぱり核だね。

中国にはあるけど、日本にはない。

とすると、どうしても原子力潜水艦による核武装が必要になるわけだ。日本は早く福島の問題を解決して、憲法改正、それから核武装、これが必要だと思う。中国と仲良くするためにも、中国に対して核で牽制。これが大人の付き合いなのではないかな。



絞め殺したいほど痛快な手紙をありがとう！

20代前半なら大ゲンカしてたところだけど、もうお互い歳をとりましたね(#^^#)。

さて今回は、W杯、原発、アイドル総選挙、『女のいない男たち』という点を一本の線で結んでみようというテーマでお送りします。(手紙を)

この国の文化は日々、あのお茶づけ海苔並みに歯ごたえなく国民に流し込まれていく。もちろん俺ごときが何を書いたって、能天気縁起良さそうな横縞の袋に押し込められた微小な具の一つにすぎない。だったら、俺は中でもあの丸いせんべいを目指したい。軽い歯ごたえと香ばしい風味で、口内を一回整理する句読点になりたい。お茶づけ海苔において、あのせんべいはきつと句点。だとしたら海苔は読点だろう、形的にも。

そういうワケで、このままだと反原発派に核を投下するみたいなUの手紙に向けて、俺がちっちゃなBB弾ならぬSB(せんべい)弾を投じて風通しを良くしたい。原発関連の話題にUを巻き込んでしまったから、そのささやかな責任を取るって意味でもね。

これがU対Gの2014 ウマシカ杯開幕戦だね。

俺が昔Uにお薦めした『最強伝説 黒沢』ってマンガ(タイトルだけ読むと格闘不良マンガみたいだけど、中年のおっさんがアジフライでもめる話)に出てくるセリフ、「他人の祭り」の王様、W杯がよいよ開幕したね。

サッカー大好きなUの話も今度ぜひ聞きたいんだけど、今んとこニワカナ俺が「ながら観」したのはコートジボワール対日本戦、ドイツ対ポルトガル戦、アメリカ対ガーナ戦だった。ちなみに俺は日本も含めて応援してるチームってないから、試合中の良いプレーにはどこでも応援するし、イマイチなプレーにはちあって思うんだけど。

上記三試合で特に気になったのは、コートジボワールのドログバと、ポルトガルのCロナウド。二人とも本調子でないながら世界有数の選手で、かつどちらも決定機に絡まなかったけど、奇しくも全く反対の役割を果たしてしまった、ということ。

ドログバは、後半出てきただけで流れを変え勝利につながる2得点を演出した、って言われてる。実際は彼が得点したワケじゃなく、彼に対するマークの混乱などその存在感自体に、日本はやられてしまった。

一方、同じように脅威となるはずのCロナウドがいたポルトガルは4対0でドイツに惨敗した。もちろんドイツは優勝候補だし、パスの精度、トラップで足元におさめる技術、組織力、戦術、高さ、落ち着き、その他全てにおいて日本とは比較にならないだろう。ポルトガルとの相性も良い。Cロナウドがほぼ仕事させてもらえなかったのはドイツがすごいからだとも思う。

ただ俺が思ったのは、Cロナウドって大きな存在を味方が逆に意識しすぎてしまった。例えばシュートすべきところでCロナウドにパスして取られるシーンとか、彼を中心に試合運びしたいのにできないジレンマが目立った、ように感じた。

脅威はときに諸刃の剣となる。抑止力としてのプラスの面と、逆に混乱を招くマイナスの面。

これつまり、核の脅威と似てるって意味ね。ここから、核の話に移ろう。

Uの手紙で議論に値する部分は多々あると思う。ただ、原発、作業員、核兵器、原子力潜水艦その他の是非は、全部別個の議論として考えたほうがいと俺は思ってる。

だってこの国では、「核に反対だから被曝は危険」対「核に賛成だから被曝は安全」ってステレオタイプな、立場が先に立った争いばっかだから。「原発はイヤだけど核兵器は賛成」とか、「被曝は危険だけど原発には賛成」とか、立場に関係ない主張はなかなか出てこない。

かつて「常識を守りたくても守れないヤツ」として関係各位を震え上がらせたUでさえ、推進かつ安全派だもん。大人になった分、ちょっとつまんない。

でも結論から書くけど、米が軍事費縮小等の流れでどうも、世界的に核兵器を削減し全廃まで真剣に目指してるって話もあるから（大統領がノーベル賞取ったのもその足がかり）、日本が兵器としての核を持つのは国内だけじゃなく国外の混乱が大きすぎて不可能だと思う。核以外にも兵器は進歩してるし、核の投下は被爆（曝）国日本ではハードル高すぎるから、核にこだわりすぎるのもどうだろう。あと最近だと、北の扱いに中が困ってる間に日本は拉致問題で近づいて、北（にある核）の存在自体を安全保障の枠組みに取り込もうって考えもあるみたいだよ。米が世界の中心から降板しつつある今でも、この国は米の嫌がることはほぼ絶対しないからね。

人口が減少して、移民が増えて、産業が全体的に縮小して、格差が広がって、貧乏人は作業員とか兵隊になって命削ったり殺し合ったりする社会が、良くも悪くもない、公平に考えたこの国の未来だと俺は思う。

次にこっから、Uの書いた手紙に一個一個風穴を開けていこうと思う。

まず、『天誅』に関して、今思うと『シャンゼリオン』に近かった気がする。パロディ具合とか。途中で黒岩が出てきても全然おかしくなかった。「知っているか！」つって。懐かしいね。

原発作業員の給料は、例えばNHKのドキュメントでは、手取り月25万だったのが後から20万に減額され、さらに宿舍を追い出され食費も自己負担とかね。もちろんこれより高い人もいれば、裏社会に集められた日雇いの人たちの扱いがひどいって報道もある（ちなみに某居酒屋の賃金をネットで見たら23歳正社員で月収23万、こっから税金が引かれるみたい）。実際、原発作業員よりも除染作業員のほうが手当も厚くて賃金高いから職を移す人が多いっていうのはよく言われる話だよ。

作業員の待遇改善は脱原発ほど叫ばれないし、賃上げの作業員デモもまったく報道されないけど、俺が作業員の話（死亡も含め）に粘着してる一番の理由は、待遇改善を訴えたいからでも死亡と因果関係を疑いたいからでもない。どうせ俺が何かを変えられるワケもないし、因果関係も証明できない。

また逆に、最近Uみたいな考えに近い人が原発作業員になったマンガが本屋やコンビニに置かれて、「原発は安全だからみんな働きに来いよ！」って読めなくもない描き方をされてるけど、もちろんそういうことが書きたいんでもない。

俺が思うに、この国の文化は彼らに対する態度を決めかねていて、結局多くを語らないまま3年以上が経過してしまった。まさにお茶漬けみたいなこの国の文化は、異物としてのせんべいも投げられないまま、汚染水混じりでダラダラと垂れ流されてる。

繰り返しになるけど俺が言いたいのはつまり、「噛まずに吞まれてるぞ文化！」ってことだ。海外ならもっと風刺の効いた表現がいくらだって出るだろうに、この国の文化は自粛と配慮と風評被害で冷却され続けてる。もちろんそこは利権という凍土壁でがつつりブロックもされてるんだらう。

みんなUみみたいに、「現実はそれで回ってるんだからいいじゃん」ってW杯観てるのは知ってる。そして気づいたら原発は爆発し、丸刈りの女が不特定多数に向かって泣いて謝罪し今じゃそれなりの順位で総選挙におさまり、渋谷では痴漢が逮捕され、国民も赤紙で貧乏人同士の殺し合いに駆り出されたりするんだらう。人間って戦争ばっかしてるから、みんな心の奥底では前線で殺し合ったり飢えて死んだりしたいんだらうね。

今、前線で戦死した作業員が、将来の戦争に駆り出されるかもしれない俺や下の世代とかぶるから、それを無視し続けるこの国のお茶漬け文化に固形の異物を投じたい。意味はないけど、俺はそのつもりで書いてる。

次に鼻血に関してだけど、前回まずネットでよく取り上げられてる話を時系列でまとめたのは、米軍の話と絡めて「風評の責任は常に叩きやすい者に押し付けられる」って構図を書きたかった。

また俺が載せたデータは原発推進派が安全の根拠として使う、いわゆる御用学者側の学説だ。巷の脱原発派はもっと危険寄りのデータを使う。安全も危険も、根拠となるデータは山ほどある。でも俺にはどっちが正しいか判断できないから、あえて一番安全派の意見を使って、それに対して言いたいことを言ってる。

1%なら単純に言えば百人に一人、病気になった当人と関係者以外には関係ない数字だ。国にとっては正に誤差の範囲と言えるだろう。当人に向かって「あなたのガンは誤差の範囲です」って笑いながら告知すればいい。

これに関連して最近ネット動画で話題になってるのが、福島県民健康調査の検討委員会の、甲状腺がんに関する専門部会だ。極論すれば御用学者が集まって、賠償額を下げたり因果関係を否定するための学説を地固めする会合だって言っちゃうけど、甲状腺ガンを摘出手術した小児50人に対して、「過剰診断や、過剰治療の可能性は否定できない」と東大教授が指摘すると、福島医大の教授は「一般的に小児の甲状腺がんはリンパ節等への転移が多く、手術しなくてもいいがんを取っているわけではない。実際（リンパ節や肺に）転移した患者は（多く）いる」って言いながら、人数の公表は拒んだ。（）内は表現が曖昧にぼやかされてる所だ。

でも俺が取り上げたいのはそこじゃなく、その後の記者会見における部会長の教授の発言だ。要約すると、「今までは因果関係がないって結論ありきで議論していたが、一回前提知識をさらにして、今後は因果関係を真剣に検討していきたい」（動画26分前後）って言ったことだ。

被曝に不安を抱えながら真剣に子育てして来た親は、学者が3年以上かけてやっと真剣に検討を

始めたって泣きながら喜ばばいい。今までは片手間で鼻ほじりながら猥談でも語ってたんだろう。所詮その程度だよ。この話題自体ネットの一部でしか取り上げられないし、無名人がどう死のうが生きようが全ては誤差の範囲だ。

だから自己責任でしか自分は守れないと俺は思う。気づいたときには遅すぎるだけだ。

あと首相がえらって話ね。これは断言したいからするよ。

首相は絶対に責任を取らない。年金、汚職、原発事故、その他どんな問題だろうと、権力者が責任を取った例は過去にない。数年後にはポストも変わり、立場も変わり、責任の所在は曖昧になる。そもそもU自身、「責任の一端は俺が担うといったようなもんだから」って書いてる。「言ったようなもん」って、実際「言ってない」ってことだよ。公約だって守らなくても特に誰も責任を取らない。「公約を破る政策こそが、実は最も公約を守る政策になる」って理屈がまかり通るシステムだから。それが通ればそもそも責任なんて存在しないのと同じだ。

権力者の責任は、むしろ現場の担当者に押し付けられる場合も多い。あの無茶なドラマの「半沢」でさえ、権力者は上手に搦り取られ、部下は島流しされた。続編ではそれもまとめて（いらない引き出物みたいに）突っ返しまくるんだろうけど、新婚の顔写真入りの皿だって捨てられずに筆筒の奥にしまわれ、返すに返せないのが現実だ。アイドルだって丸刈りの本人は炎上したけど、動画を流した運営側はあの不愉快をばら撒いた責任を取ってない。よね？

でも権力者だって別に自分の意志でやりたい放題してる時代じゃないと俺は思う。「よく言った」って庶民は思うかもしれないけど、それは全部決まったシナリオをなぞってるだけだろう。そう、『1Q84』のように。というワケでこっから、春樹の話題に入ろう。

Uが書いてた『1Q84』の評、あとUがかなり昔教えてくれた「『羊をめぐる冒険』の先生には、闇社会を牛耳ってた実在のモデルがいる」って話に関連して（あの頃はネットが今ほど使えなかったからそういう裏話はなかなか聞けなかったよね）、俺はずっと内的な文学表現として春樹を読んできたけど、よく考えると春樹は外的な告発としての役割も作品に持たせようと本気だったのかもしれない、と思えてきた。

この世界にある闇の陰謀について、庶民には目撃どころか想像さえできない「リトル・ピープル」みたいな、一生接点がないからこそ人間でも妖怪でも庶民には大差ない存在、絶対的な権力を持ち世界を好きな方向に操作できる何者かの是非について、その片鱗をちらつかせながら世に問おうとしてたのかもしれない。

『女のいない男たち』でも、そういう力に翻弄される話はいくつか出てくる。俺はそこに意味があるとはあんま考えてなかったんだけど、春樹はずっと昔からそういう大きな闇の力の存在と、それに対抗する個人の責任について書いてたのかもしれない。

だから「ノーベル賞」狙えんのか。なるほど。

今回はこんな感じ。さて、お題は全部つながったかしらん。

どうかな？



「はみだしウマシカさん その3」

俺だったらW杯を題材にこういう（映画の？）あらすじを考えた。いってみよう。

アイススケートは競技が終わった翌日、エキジビションがある。だったらW杯も終了後に、優秀選手22名+控え数名によるエキジビション・マッチがあってもおかしくないじゃんって発想から始まる。

監督は決勝戦の2チームから。優秀選手はその年のベスト16までのチーム内から各1~2名ずつ選ばれる。同じ国の選手は別のチームになる。

今回の目玉は何といってもジャマイカの英雄（以下、英雄）と呼ばれるFWの選手。FIFAランクでも決して上位ではなかったジャマイカを二大会連続ベスト8まで押し上げた功労者だ。しかし英雄は年齢的にも最後のW杯であり、今後は若い選手が台頭してくるだろうという焦りもある。

その年、ジャマイカからは二人の選手が選ばれることになっていた。しかし、英雄はここで一計を案じる。「一国に二人の英雄はいらない。英雄は私一人でいい」。

エキジビション・マッチ参加選手の発表がある閉会式直前、英雄以外のジャマイカ選手が全員謎の腹痛に襲われてしまう。そこでジャマイカチームは急きょ代役として、雑用のスタッフ（以下、雑用）を選手としてエントリーしてしまう。

この雑用、実はそもそもボブスレーの選手だったんだけど、もちろんボブスレーもしたことがない。ただボブスレーを上手に磨き上げる腕は超一流でサッカーも大好きだったため、ボール磨きとしてチームに帯同していた。

さて、エキジビション・マッチは三日後。

参加選手の発表翌日、優秀選手が2チームに分かれ自己紹介するミーティングで、雑用が無邪気に出場経緯を話すのを聞いた監督は切れる。ファックとか言ってしまう。

おかげでチームワークはバラバラ、他にも若手で生意気な選手やプライドは高いが匂を過ぎた選手などの問題を抱えている。しかも練習中にボールが次々にパンクする等アクシデント続き。

最悪の空気のロッカールーム。

そこで一人、無邪気に窓拭きをする雑用。

「お前、こんなときになんで窓なんか拭いてるんだ？」

切れるキャプテンに無邪気な笑顔を返す雑用。

「だって、磨くボールがもうなくなっちゃったからね」

とんだアメリカン・ジョークに、切れそうになるキャプテン。

そのとき、同じ窓の反対側からも窓拭きしている老人がいることに気付く。

「なんだあいつは。お前の友達か？」

「いや、ただの窓拭きが好きな老人みたいだけど」

「何言ってるんだ？ そんなバカみたいな奴いるか？」

白髪でヒゲぼうぼうの老人が、白と黒の五角形チェック柄の雑巾を使い、独特の動きで窓を拭

いている。老人が素早く窓の四隅に雑巾を動かすと、それを追っかけて雑用がすばやく雑巾を動かす。まるで「サンドウィッチマン」の「ガソリンスタンド・コント」のよう。

「お前、その動きは、いったい」とキャプテン。

「こんなのは序の口さ」と雑用。

その言葉が老人に通じたのかはわからないが、さらに早く動く老人の雑巾を、さらに素早く追いかける雑用。それを見てチームメイトが呟く。

「あの老人は、もしかして、...ミヤギ、さん？」

「え？」

驚く一同。ベスト・キッドの音楽流れる。

「しかし、こいつは、もしかしてとんでもない逸材なのかも」

～中略～

エキジビジョン・マッチ開始のホイッスルが鳴る。

開始早々に英雄とキーパーが交錯しキーパー負傷退場。控えキーパーとして、雑用がゴールマウスを任される。

驚く英雄。実は彼こそが、ジャマイカ・チームの食事に下剤を盛り、ジャマイカの英雄として君臨し続けようと目論んでいた張本人なのであった。ってバレバレの展開。しかし、雑用がピッチに立つとは考えていなかった。

鋭い英雄のシュートを、きわどくパンチングで防ぐ雑用。

「いったい、どうなってるんだ！」

バラバラだったチームが、雑用の文字通り身を呈した頑張りで一つにまとまっていく。

～中略～

結局2対2くらいでPK戦へ。

PK戦は4人目まで終わって3対3で先攻側、キッカーを雑用に託す。

「エキジビジョンなんだから、楽しくやらなくちゃな。お前のおかげでいい試合になったし、サッカーを始めた頃を思い出せたよ」とキャプテン。

「いや、やるからには決めるよ」と雑用。

ニセミヤギさんとの修行を思い出す雑用。

もちろん自然に、鶴の構え。

啞然とする会場。

当たり損ねのキックでコロコロとボールが転がりそのままゴールマウスに吸い込まれる。

どよめく会場。

そして、最終5人目、2対3でキッカー英雄対キーパー雑用のPK戦に。

～中略～

雑用は後に、その磨き技術が認められ、紆余曲折を経てカーリングの選手（リンクをブラシで磨く役）になりました。

あと、PKはちゃんと止めて、MOMに選ばれました。以下、その時の会話。

「お前が新しい英雄だ」PKを止められ、握手を求める英雄。

「いや、僕は日本人に掃除の素晴らしさを教えられた、ただのボール磨きさ」

以上



考えるウマシカ～第十五回 『女のいない男たち』と2014 W杯～

<http://p.booklog.jp/book/87252>

著者：弦楽器イルカ+友人

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gengakkiiruka/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/87252>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/87252>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ